

『進学事典』で請求したパンフレットを使い、学校比較・学校調べを体験

スクールデータ

生徒数 / 648人
 (男子314人・女子334人)
 普通科18学級
 進路状況(2010年度) /
 大学・短大進学81.0%、
 専攻進学4.3%、
 就職1.9%、
 その他12.8%

徳島県美馬市脇町大字脇町1270-2
 電話 : 0883-52-2208
 URL : <http://wakimachi-hs.tokushima-ec.jp/>

学校の特色を読み取る力は志望理由書を書く力に直結

脇町高校は創立115年を数える伝統校で、地域の進学校として周囲からの期待も高い。進路学習も盛んで、「脇町」の「W」にちなんで「W-ingプラン」と名付けて、力を入れてきた(図1)。2010年度からはSSHに指定され「W-ingプラン」を発展させた「S・W・ingプラン」を策定。大学教授を招いた講演など、さまざまな企画を実施している。

パンフレットや『進学事典』が進路に関する会話を生んだ

2学年3学期には、進学に向けた決意表明の意味を含めて、生徒全員が志望理由書を書く。昨年度、2学年の学年主任だった美馬和彦先生は、少しでも具体的に充実した内容の文章が書けるように、志望理由書作成と同時期に、『進学事典』とパンフレットを使った学校比較を行うことにした。これまでは、『進学事典』を見ながら学校情報をワークシートに記入していた。だがこの機会に、日頃から生徒に対して感じていた「基礎学力はあるが、自主性に乏しく、優先順位をつけて動くのも苦手」という課題の克服を意識した

指導ができないかと考えた。そこで昨年度から、授業の2週間ほど前のHRに、『進学事典』を使って興味のある学校のパンフレットを請求することにした。「生徒の多くが国公立大学を第一志望にしていますが、視野を広げるため、私立大学や専門学校を対象にしました。学校名やエリアにはこだわらず、興味のある学部・学科を擁する学校を少なくとも3つは取り寄せるように指示。この作業に課題克服への期待を込めました。」

当日は、自宅に届いたパンフレットを持ち寄り、『進学事典』についてのワークシートを使い、「学費」、「学ぶ内容」、「自分にとってのプラスマイナス」などの項目に沿って学校の特色を書き出していた。「色とりどりのパンフレットが広げられ、生徒たちは楽しそうに作業していました。互いのパンフレットを見せ合う姿や、隣のクラスの生徒から興味のある学校のパンフレットを借りる姿もありました。生徒同士で進路に関する会話ができたことは大きな収穫です。また、『進学事典』は全国の学校が網羅的に掲載されており、生徒も比較検討の情報源として活用していました。」

美馬先生はこの授業で、「その学校が2番目を入れていることは何か。売りにしていることや特徴をみつけてほしい」と伝えました。一見するだけでは、学校ごとの違いはわかりにくい。「だからこそ目的をもって読み込み、必要な情報を読み取る力をつけてほしいと考えました。また学ぶ内容や学校の違いを詳しく知ることは、志望理由書を書く力に直結する、とてもいい経験だったと思います。」

授業終了後にとったアンケートでは、「調べるのが大切だとわかった」、「受験が近づいていると実感した」、「同じ学部でも、学校によって学べるのが違うとわかった」など、まさに、先生たちのねらいどおりといった感想があった。なかには「工学部志望だが、工学部にはさまざまな学科があることがわかった」と、漠然とした志望を具体的に考える必要性に気づいた生徒もいた。「担任にとっては、一人ひとりの興味や方向性や個性を把握する、いい機会でした。次の学年への引き継ぎの資料としても役立ちました」と美馬先生。

リクルートサービスを活用した指導実践例

図1

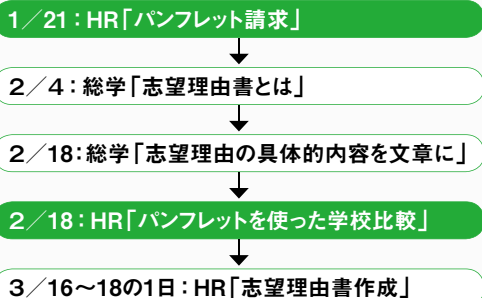
2学年の「W-ingプラン」の主な内容

4月	課題研究、情報ノート作成、自己を見つめて
5月	課題研究、外部講師の講演、テーマ学習
6月	ディベート、職業調べ
7月	コース選択説明、課題研究
8月	夏休み
9月	課題研究、ディベート
10月	小論文、修学旅行のまとめ、課題研究
11月	外部講師の講演、テーマ学習、課題研究
12月	小論文、課題研究
1月	ディベート、課題研究まとめ
2月	志望理由書、テーマ学習
3月	小論文

2学年の主な取り組みは、「物理・化学・生物」の実習をもとに研究レポートをまとめる課題研究、クラス対抗戦まで行い盛り上がるディベート、書く力を養う小論文、進学への心構えを文章にまとめる志望理由書の作成など。

図2

志望理由書作成の流れ



総合的な学習の時間とHRを使う前提で綿密に計画された「W-ingプラン」だが、昨年度は何とか時間をやりくりし、2時間を捻出。パンフレットの請求と、学校比較のワークを実施した。



教務課長(昨年度2学年主任)

美馬和彦先生

価値基準が多様化し変化が激しい現代、生徒のために良かれと思い、キャリア教育に取り組んでいますが、取り組みの内容が生徒にとって本当に良いものなのか、いつも自問自答です。答えは20年後、30年後の生徒の手に委ねられています。